

関わり合いながら学ぶ特別活動

特別活動主任 佐野 佳代子

なかなか出口の見えないコロナ禍ですが、コロナ禍となって改めて感じるのは、学校は人と関わり合う場なのだということです。相手がいるからこそ学べたり、集団の一員として自覚したりできるのは、学校だからこそだと私は考えます。人との距離を取ることを求められる昨今ですが、心の距離は離れることはありません。児童が、関わり合いながら学べる住吉小でありたいと願い、今年度は、密にならないことや十分な換気のもとで行える活動を少しずつ再開しています。

特別活動の柱として、今年度は「異学年交流」と「挨拶の励行」に取り組んでいます。

「異学年交流」では、1学期は1年生－6年生、2年生－4年生、3年生－5年生の2学年でなかよしペアを作り、一緒に遊んだり体力テストを実施したりしました。自分のペアがいることで、上級生は下級生のことを思って優しく接し、下級生は上級生を手本として行動することができました。2学期以降は、1年生から6年生の全学年が所属するたてわり班を作り、異学年の交流を広げていくことを計画しています。

「挨拶の励行」では、なかよしペアであいさつ運動に取り組みます。代表委員会が「元気なあいさつがあふれる住吉小にしよう」というスローガンを考えました。自分からすすんでたくさんの人に挨拶をすることで、登下校時や校内で会った保護者や地域の方々、教職員や友達などとの関わりを育てていきます。あいさつ運動の当番が、住吉小の伝統である「たすき」をして張り切って門に立つ姿は、住吉小のよさでもあります。

一日も早く活気のある特別活動が戻ることを願い、今できることを工夫しながら取り組んでいきます。

♪♪色えんぴつ（5年）♪

5年担任 花坂 未来・大原 道子

5年生が意識していることは、2つあります。1つは、誰に対しても挨拶をすることです。登下校で交通安全の見守りをしてくださっている方や地域の方に自分から気持ちのよい挨拶をし、挨拶で学校を引っ張っていきたいと思っています。

もう1つは、学年の中で「いつでも、どこでも、誰とでも」コミュニケーションを図ることができるようになることです。コミュニケーション力は、これから生きる上でとても大切なスキルだと考えています。「自分」を理解し、相手と上手にコミュニケーションを図る力を身に付けてほしいと子どもたちに話をしています。

2学期は、住吉スポーツDAYなど様々な教育活動を予定しています。行事や日々の学習を通じ、学力だけでなく、生活力やコミュニケーション力が成長するように指導していきます。

第1回学校評価について

7月に実施した第1回学校評価へのご協力ありがとうございました。本日、第1回学校評価アンケートの結果を配布しました。学校評価の内容を2学期以降の教育活動に生かしていきます。

学校ホームページについて

学校の様子を保護者や地域の皆様に伝え、開かれた学校にしていくために、
普段の学校生活の様子をホームページで公開しています。ホームページをより身近に感じていただくために、学校ホームページの学校生活の様子部分をQRコードにしています。ぜひご覧ください。

